

正 本

平成 19 年 7 月 31 日

山形大学医学部収容定員変更関係
設 置 計 画 書

国立大学法人 山 形 大 学

目 次

- 1 基 本 計 画 書
- 2 校 地 校 舎 等 の 図 面
- 3 学 則
- 4 意思の決定を証する書類
- 5 医学部の収容定員変更の趣旨等を記載した書類
- 6 教員名簿（学長の氏名等）

1 基本計画書

基本計画書

基本計画							
事項	記入欄						備考
計画の区分	医学部の収容定員変更						
フリガナ設置者	コリツダガクダイガク ヤマガタダイガク 国立大学法人 山形大学						
フリガナ大学の名称	ヤマガタダイガク 山形大学 (Yamagata University)						
大学本部の位置	山形県山形市小白川町一丁目4番12号						
大学の目的	<p>本学は、教育基本法にのっとり、学術文化の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し知的道徳的及び応用的能力を展開させて、平和的民主的な国家社会の形成に寄与し、文化の向上及び産業の振興に貢献することを目的とする。</p>						
定員を増加する目的	<p>現在の医療を取り巻く環境・社会状況の変化に伴い、医師の地域偏在による医師不足は依然として深刻な問題である。本学が位置する山形県は、新医師確保総合対策においても医師不足が特に深刻と認められる県とされており、県と連携協力のもと医師の地域定着策を講じる必要がある。</p> <p>このように山形県における深刻な医師不足の解消と、地域医療レベルの向上を目的として行う県内医師定着率向上策を有効に機能させるため、新医師確保総合対策に基づき入学定員の増員（10名）を行うものである。</p>						
新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
人文学部	年	人	年次 人	人		年 月 第 年次 平成18年4月 第1年次	山形県山形市小白川町一丁目4番12号
人間文化学科	4	100		400	学士（文学）		
法経政策学科	4	200		800	学士（法学， 経済学，政策 科学）		
（学部共通）			3年次 20	40			
地域教育文化学部						平成17年4月 第1年次	山形県山形市小白川町一丁目4番12号
地域教育学科	4	80		320	学士（教育学）		
文化創造学科	4	75		300	学士（学術）		
生活総合学科	4	85		340			
理学部						平成7年4月 第1年次	山形県山形市小白川町一丁目4番12号
数理科学科	4	45		180	学士（理学）		
物理学科	4	35		140			
物質生命科学科	4	45		180			
生物学科	4	30		120			
地球環境学科	4	30		120			

新 設 学 部 等 の 概 要	医学部						山形県山形市飯田西二丁目2番2号	平成29年度まで	
	医学科	6	110 (100)	-	660 (600)	学士(医学)	平成20年4月 第1年次		
	看護学科	4	60	3年次 10	260	学士(看護学)	平成5年4月 第1年次		
	工学部(Aコース)					学士(工学)	平成12年4月 第1年次		
	機能高分子工学科	4	115		460				
	物質化学工学科	4	115		460				
	機械システム工学科	4	120		480				
	電気電子工学科	4	80		320				
	情報科学科	4	80		320				
	応用生命システム工学科	4	60		240				
	工学部(Bコース)					学士(工学)	平成12年4月 第1年次		
	物質化学工学科	4	25		100				
	機械システム工学科	4	25		100				
	電気電子工学科	4	12		48				
	情報科学科	4	11		44				
	応用生命システム工学科	4	7		28				
	農学部					学士(農学)	平成10年4月 第1年次		
	生物生産学科	4	55		220				
	生物資源学科	4	50		200				
	生物環境学科	4	50		200				
	計		1,700 (1,690)	30	7,080 (7,020)				
		社会文化システム研究科							山形県山形市小白川町一丁目4番12号
		(修士課程) 文化システム専攻	2	6		12	修士(文学)		平成9年4月 第1年次
	社会システム専攻	2	6		12	修士(政策科学)			
	教育学研究科					修士(教育学)	平成5年4月 第1年次		
	(修士課程) 学校教育専攻	2	6		12				
	教科教育専攻	2	33		66				
	医学系研究科						山形県山形市小白川町一丁目4番12号		
	(博士課程) 医学専攻	4	26		104	博士(医学)	平成9年4月 第1年次		
	(博士前期課程) 看護学専攻	2	16		32	修士(看護学)			
	生命環境医科学専攻	2	10		20	修士(医科学)			

(博士後期課程) 看護学専攻	3	3		9	博士(看護学)		
生命環境医科学専攻	3	6		18	博士(医科学)		
理工学研究科						平成11年4月 第1年次	山形県山形市小白川町 一丁目4番12号 山形県米沢市城南四丁 目3番16号
(博士前期課程) 数理科学専攻	2	14		28	修士(理学)		
物理学専攻	2	11		22			
物質生命化学専攻	2	11		22			
生物学専攻	2	11		22			
地球環境学専攻	2	10		20			
機能高分子工学専攻	2	32		64	修士(工学)		
有機デバイス工学専攻	2	13		26			
物質化学工学専攻	2	45		90			
機械システム工学専攻	2	45		90			
電気電子工学専攻	2	31		62			
情報科学専攻	2	31		62			
ものづくり技術経営学専攻	2	8		16			
応用生命システム工学専攻	2	23		46			
生体センシング機能工学専攻	2	29		58	修士(理学, 工学)		
(博士後期課程) 地球共生圏科学専攻	3	7		21	博士(理学, 工学, 学術)	平成19年4月 第1年次	
有機デバイス工学専攻	3	2		6	博士(工学, 学術)		
物質生産工学専攻	3	7		21			
システム情報工学専攻	3	6		18			
ものづくり技術経営学専攻	3	2		6			
生体センシング機能工学専攻	3	9		27	博士(理学, 工学, 学術)		
農学研究科					修士(農学)	平成14年4月 第1年次	山形県鶴岡市若葉町1 番23号
(修士課程) 生物生産学専攻	2	16		32			
生物資源学専攻	2	18		36			
生物環境学専攻	2	14		28			
計		507		1,108			
合計		2,207 (2,197)	30	8,188 (8,128)			
同一設置者内における 変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	該当なし						

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
		講義	演習	実習	計	
	—	—科目	—科目	—科目	—科目	—単位

教 員 組 織 の 概 要	学部等の名称	専任教員等						兼任 教員	備 考
		教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	医学部	46 (46)	38 (38)	39 (39)	126 (126)	249 (249)	2 (2)	0 (0)	
	医学科	35 (35)	31 (31)	39 (39)	116 (116)	221 (221)	2 (2)	0 (0)	
	看護学科	11 (11)	7 (7)	0 (0)	10 (10)	28 (28)	0 (0)	0 (0)	
	人文学部	42 (42)	40 (40)	3 (3)	0 (0)	85 (85)	0 (0)	78 (78)	
	人間文化学科	26 (26)	20 (20)	2 (2)	0 (0)	48 (48)	0 (0)	37 (37)	
	法経政策学科	16 (16)	20 (20)	1 (1)	0 (0)	37 (37)	0 (0)	41 (41)	
	地域教育文化学部	57 (57)	36 (36)	0 (0)	0 (0)	93 (93)	3 (3)	90 (90)	
	地域教育学科	22 (22)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	35 (35)	0 (0)	31 (31)	
	文化創造学科	17 (17)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	34 (34)	
	生活総合学科	18 (18)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	31 (31)	3 (3)	25 (25)	
	理学部	37 (37)	27 (27)	5 (5)	5 (5)	74 (74)	0 (0)	0 (0)	
	数理科学科	8 (8)	7 (7)	2 (2)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	0 (0)	
	物理学科	8 (8)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	
	物質生命科学科	9 (9)	6 (6)	1 (1)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	0 (0)	
	生物学科	6 (6)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	
	地球環境科学科	6 (6)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	
	工学部	—	—	—	—	—	—	142 (142)	工学部に関しては、大学院理工学研究科の所属（専任教員）であるため、学部の授業科目を担当する教員数及び助手の数（兼任教員数）を兼任教員欄に表した。
	農学部	32 (32)	20 (20)	0 (0)	7 (7)	59 (59)	0 (0)	0 (0)	
	生物生産学科	11 (11)	7 (7)	0 (0)	3 (3)	21 (21)	0 (0)	0 (0)	
	生物資源学科	11 (11)	8 (8)	0 (0)	1 (1)	20 (20)	0 (0)	0 (0)	
	生物環境学科	10 (10)	5 (5)	0 (0)	3 (3)	18 (18)	0 (0)	0 (0)	
	計	214 (214)	161 (161)	47 (47)	138 (138)	560 (560)	5 (5)	310 (310)	
	既設分	—	—	—	—	—	—	—	
	該当なし	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	
	計	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	
	合計	214 (214)	161 (161)	47 (47)	138 (138)	560 (560)	5 (5)	310 (310)	
教員	職 種	専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員	283 人		0 人		283 人			

以外の職員の概要	技術職員		682	0	682				
	図書館専門職員		11	0	11				
	その他の職員		0	0	0				
	計		976	0	976				
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	349,883㎡	0㎡	0㎡	349,883㎡ (附属病院面積)				
	運動場用地	175,197㎡	0㎡	0㎡	175,197㎡				
	小計	525,080㎡	0㎡	0㎡	525,080㎡				
	その他	7,950,670㎡	0㎡	0㎡	7,950,670㎡				
	合計	8,475,750㎡	0㎡	0㎡	8,475,750㎡				
校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用	計				
		208,079㎡	0㎡	0㎡	208,079㎡ (附属病院面積)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	113室	119室	445室	24室 (補助職員0人)	4室 (補助職員0人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称		室数					
		大学全体		695 室					
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	大学全体	1,049,777 〔318,873〕	32,557 〔6,412〕	11,805 〔9,062〕	3,332	1,906	0		
	計	1,049,777 〔318,873〕	32,557 〔6,412〕	11,805 〔9,062〕	3,332	1,906	0		
図書館		面積	閲覧座席数		収納可能冊数				
		12,774㎡	1,158席		1,015,000冊				
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
		8,402㎡	野球場4面		テニスコート17面				
経費の見積り及び維持の方法	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度		
	教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円		
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		運営交付金による							
大学の名称		山形大学							
学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
大学院		年	人	年次人	人		倍		

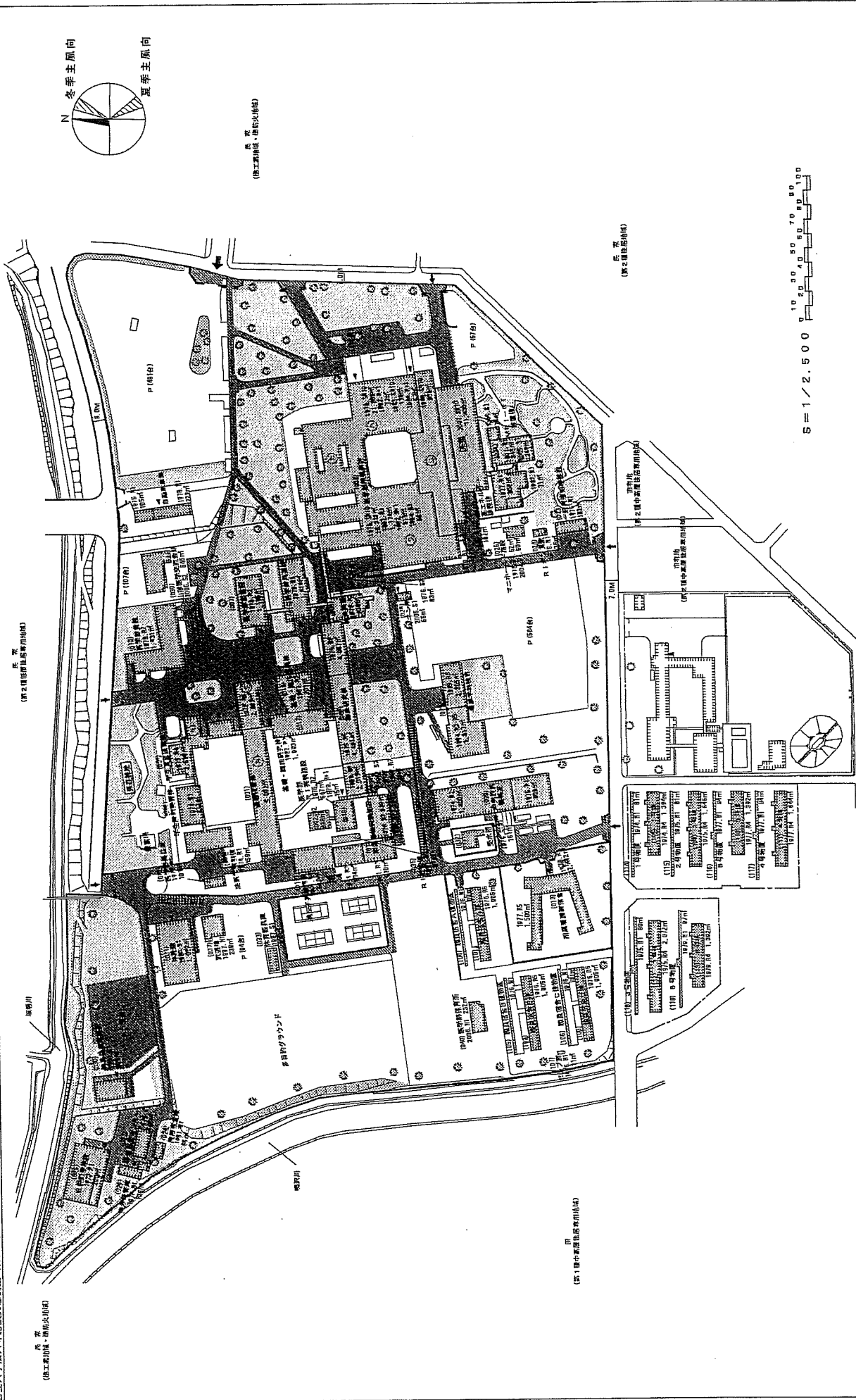
既 設 大 学 等 の 状 況	社会文化システム研究科 (修士課程)					平成9年度	山形県山形市小白川一丁目4番12号	
	文化システム専攻	2	6	12	修士(文学)	1.16		
	社会システム専攻	2	6	12	修士(政策科学)	0.91		
	教育学研究科 (修士課程)						平成5年度	山形県山形市小白川一丁目4番12号
	学校教育専攻	2	6	12	修士(教育学)	2.25		
	教科教育専攻	2	33	66		0.78		
	医学系研究科 (博士課程)						昭和54年度	山形県山形市飯田西二丁目2番2号
	医学専攻	4	26	104	博士(医学)	0.89		
	(博士前期課程)						平成9年度	
	看護学専攻	2	16	32	修士(看護学)	1.03		
	生命環境医科学専攻	2	10	20	修士(医科学)	0.90		平成16年度専攻設置
	(博士後期課程)						平成16年度	
	看護学専攻	3	3	3	博士(看護学)	1.00		平成19年度設置
	生命環境医科学専攻	3	6	18	博士(医科学)	0.77		
	理工学研究科 (博士前期課程)						昭和39年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号
	数理科学専攻	2	14	28	修士(理学)	0.63		平成11年度名称変更
	物理学専攻	2	11	22		1.31		
	物質生命化学専攻	2	11	22		1.17		
	生物学専攻	2	11	22		1.18		
	地球環境学専攻	2	10	20		1.00		
	機能高分子工学専攻	2	32	64	修士(工学)	1.43		
	有機デバイス工学専攻	2	13	13		0.30		山形県米沢市城南四丁目3番16号
	物質化学工学専攻	2	45	83		1.45		平成19年度専攻設置
	機械システム工学専攻	2	45	83		1.21		平成19年度改組 平成19年度改組
	電気電子工学専攻	2	31	56		1.43		平成19年度改組
	情報科学専攻	2	31	56		0.97		平成19年度改組
	ものづくり技術経営学専攻	2	8	14		1.97		平成19年度改組
	応用生命システム工学専攻	2	23	42		0.95		平成19年度改組
	生体センシング機能工学専攻	2	29	58	修士(理学,工学)	1.18		
	(博士後期課程)							
地球共生圏科学専攻	3	7	21	博士(理学,工学,学術)	0.71			
有機デバイス工学専攻	3	2	2	博士(工学,学術)	1.00		平成19年度設置	
物質生産工学専攻	3	7	21		0.90			
システム情報工学専攻	3	6	18		0.49			
ものづくり技術経営学専攻	3	2	2		2.50		平成19年度設置	
生体センシング機能工学専攻	3	9	35	博士(理学,工学,学術)	0.15		平成19年度改組	
農学研究科 (修士課程)						昭和45年度	山形県鶴岡市若葉町1番23号	
生物生産学専攻	2	16	32	博士(農学)	0.90		平成7年度改組	
生物資源学専攻	2	18	36		0.85		平成14年度専攻増設	
生物環境学専攻	2	14	28		1.06			
学部						昭和42年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号	
人文学部								
人間文化学科	4	100	370	学士(文学)	1.03			
法経政策学科	4	200	400	学士(法学,経済学,政策科学)	1.02		平成18年度改組	
総合政策科学科 (学部共通)	4	215	430		1.01			
			3年次 40					

地域教育文化学部						平成17年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号	平成17年度改組 平成17年度改組 平成17年度改組
地域教育学科	4	80		240	学士(教育学)	1.04		
文化創造学科	4	75		225	学士(学術)	1.11		
生活総合学科	4	85		255		1.03		
学校教育教員養成課程		120		120		1.13		
生涯教育課程		75		75		1.06		
人間環境教育課程		45		45		1.02		
理学部						昭和42年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号	
数理科学科	4	45		180	学士(理学)	1.06		
物理学科	4	35		140		1.11		
物質生命化学科	4	45		180		1.06		
生物学科	4	30		120		1.00		
地球環境学科	4	30		120		1.05		
医学部						昭和48年度	山形県山形市飯田西二丁目2番2号	
医学科	6	100		600	学士(医学)	1.00		
看護学科	4	60	3年次 10	260	学士(看護学)	1.00		
工学部						昭和24年度	山形県米沢市城南四丁目3番16号	
(Aコース)								
機能高分子工学科	4	115		460	学士(工学)	1.11		平成12年度改組
物質化学工学科	4	115		460		1.08		平成12年度改組
機械システム工学科	4	120		480		1.08		
電気電子工学科	4	80		320		1.14		平成12年度改組
情報科学科	4	80		320		1.05		平成12年度改組
応用生命システム工学科	4	60		240		1.07		平成12年度改組
(Bコース)								
物質化学工学科	4	25		115		1.13		平成19年度入学 定員変更
機械システム工学科	4	25		115		1.06		平成19年度入学 定員変更
電気電子工学科	4	12		72		1.26		平成19年度入学 定員変更
情報科学科	4	11		71		1.07		平成19年度入学 定員変更
応用生命システム工学科	4	7		37		1.10		平成19年度入学 定員変更
農学部						昭和24年度	山形県鶴岡市若葉町1番23号	
生物生産学科	4	55		220	学士(農学)	1.10		
生物資源学科	4	50		200		1.12		
生物環境学科	4	50		200		1.08		
附属施設の概要	<p>名称：医学部附属病院 診療科数：17診療科 病床数：604床 所在地：山形県山形市飯田西二丁目2番2号 開設年月：昭和51年5月 面積：51,871㎡</p>							
	<p>名称：医学部附属動物実験施設 目的：実験動物の開発・研究及び動物実験並びに動物実験従事者の教育・管理等、動物実験に関する研究 所在地：山形県山形市飯田西二丁目2番2号 開設年月：昭和55年4月 面積：2,952㎡ 組織：助手1名、教務職員2名</p>							
	<p>名称：医学部附属実験実習機器センター 目的：医学の研究・教育に必要な設備を常時使用可能な状態に維持し、医学部の教職員・大学院生の研究活動を支援 所在地：山形県山形市飯田西二丁目2番2号 開設年月：昭和58年4月 面積：1,993㎡ 組織：専任准教授1名</p>							

2 校地校舎等の図面

国立大学法人帯根学舎調査（様式2）

配置図



敷地面積	建築面積	建物延面積	延べ床	容積率	全学生数	学部等名	所在地	学校番号	学 校 名	作成年度
217,839㎡	31,411㎡	117,764㎡	14.4%	54.0%	1,035人	工学部・理学部・経済学系 動物実験施設・R1センター・環境保全センター 学術情報基盤センター・遠隔授業施設	山形市飯沼2丁目2-2 飯 田	0144	山 形 大 学	2007

鶴岡地区 (100km)

農 学 部
大学院農学研究科
地域共同研究センター庄内サテライト

農学部附属農場

農学部附属演習林

米沢地区 (50km)

工 学 部
大学院理工学研究科 (工学系)
地域共同研究センター
大学院ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー

理学部夏磐梯湖沼実験所

蔵王山景

エリアキャンパスもがみ事務局
地域共同研究センター最上サテライト

小白川地区

事 務 局
人 文 学 部
地域教育文化学部
理 学 部
大学院社会文化システム研究科
// 教育学研究科
// 理工学研究科(理学系)
附 属 図 書 館
保健管理センター
学術情報基盤センター
高等教育研究企画センター
留 学 生 セ ン タ ー
教職研究総合センター
附 属 博 物 館
放射性同位元素総合実験室

松波地区 (1.6km)

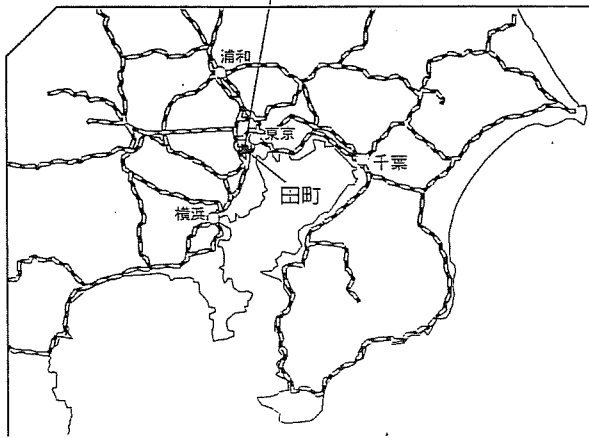
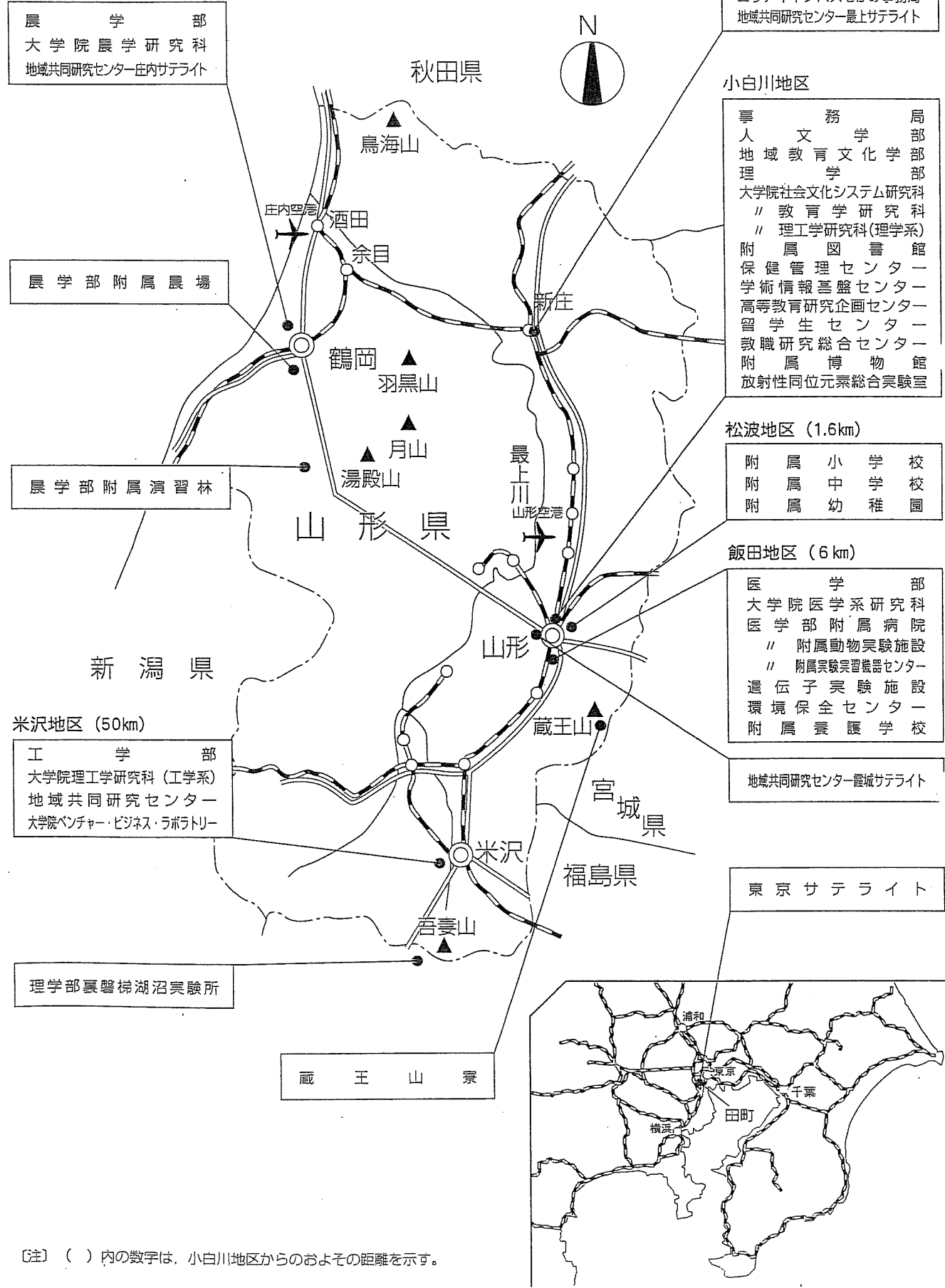
附 属 小 学 校
附 属 中 学 校
附 属 幼 稚 園

飯田地区 (6 km)

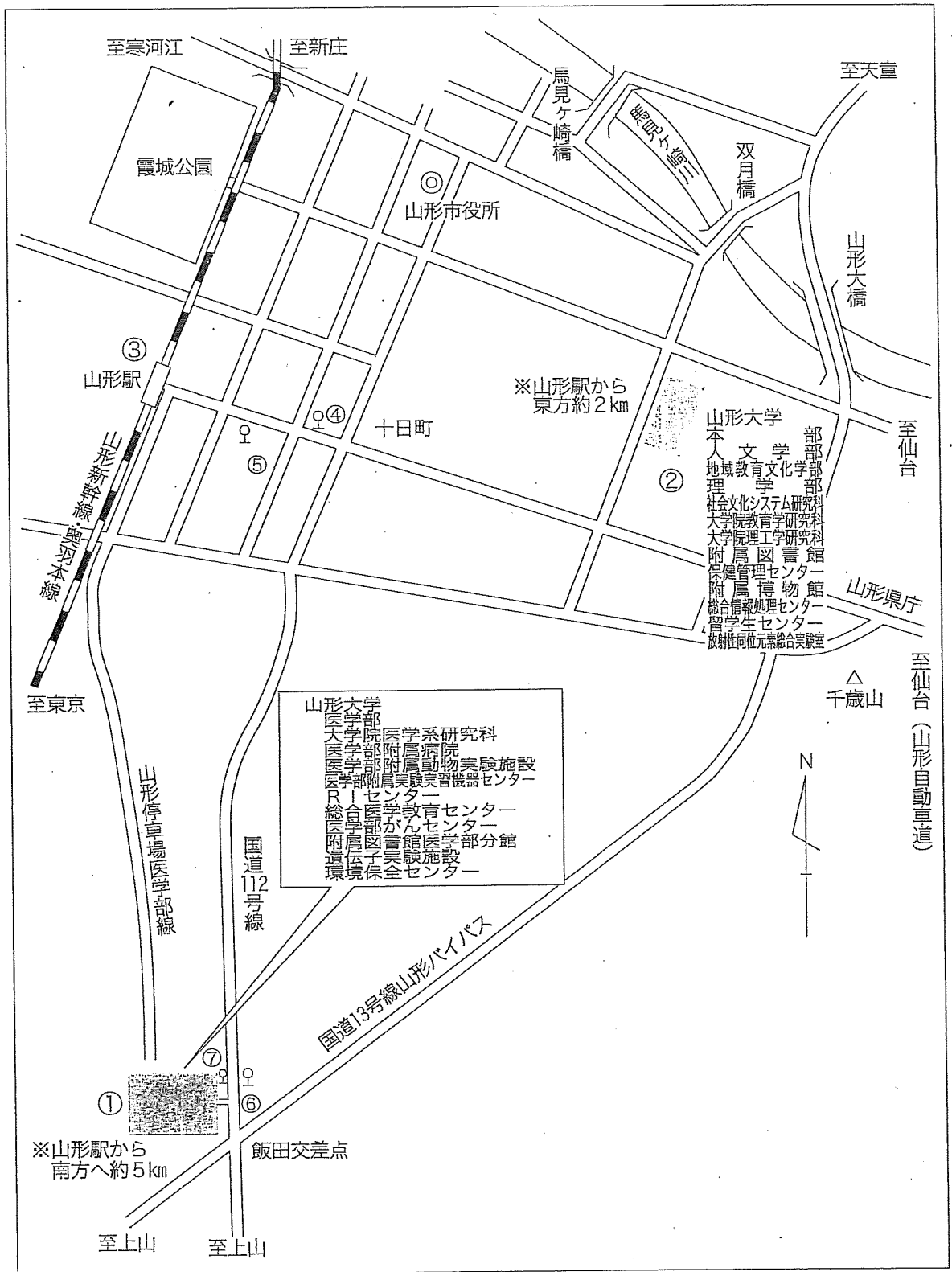
医 学 部
大学院医学系研究科
医学部附属病院
// 附属動物実験施設
// 附属実験実習機器センター
遺伝子実験施設
環境保全センター
附 属 養 護 学 校

地域共同研究センター霞城サテライト

東京サテライト



[注] () 内の数字は、小白川地区からのおよその距離を示す。



交通案内

交通機関	バス路線等	※	所要時間
バス	千歳公園～大学病院口～高松葉山	④	約 10 分 (山交ビル角乗車)
	〃 ～大学病院口～上の山温泉		
	山交ビルバスターミナル～大学病院		約 17 分
	山形駅～大学病院		約 15 分
	山形駅～大学病院口～蔵王温泉		約 10 分
タクシー	山形駅～大学病院		約 7 分

※④バス停留所 (山交ビル角) ⑤山交ビルバスターミナル
 ⑥バス停留所 (大学病院口) ⑦バス停留所 (大学病院)

3 學 則

山形大学学則現行・改正案対照表

1 変更の事由

医学部医学科における収容定員増に伴い，所要の改正を行うものである。

2 変更点

医学部医学科の入学定員を10人増員する。

3 新旧対照表

改 正 前				改 正 後			
(省 略)				(省 略)			
第6章 修業年限及び収容定員				第6章 修業年限及び収容定員			
(省 略)				(省 略)			
(収容定員)				(収容定員)			
第29条 本学の収容定員は，次のとおりとする。				第29条 本学の収容定員は，次のとおりとする。			
学部・学科	入学定員	3年次編 入学定員	収容定員	学部・学科	入学定員	3年次編 入学定員	収容定員
(略)				(略)			
医学部				医学部			
医学科	<u>100</u>		<u>600</u>	医学科	<u>110</u>		<u>660</u>
看護学科	60	10	260	看護学科	60	10	260
計	<u>160</u>	10	<u>860</u>	計	<u>170</u>	10	<u>920</u>
(略)				(略)			
合 計	<u>1,690</u>	30	<u>7,020</u>	合 計	<u>1,700</u>	30	<u>7,080</u>
(省 略)				(省 略)			
附 則				附 則			
この学則は，平成20年4月1日から施行する。				この学則は，平成20年4月1日から施行する。			

4 意思の決定を証する書類

山形大学医学部医学科収容定員増に伴う決議録

医学部臨時教授会

平成19年6月27日（水）開催

議事録（関係部分のみ）

協議事項

1 医学科収容定員増について

学部長から、本件について、資料1に基づき、平成20年度概算要求に係る学部組織整備計画として、医学科入学定員の増員について諮られ、審議の結果、原案どおり承認された。

関係資料

資	料	1
平成19年	6月27日	
教	授	会

平成20年度概算要求 学部組織整備計画（案）

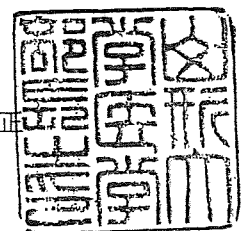
【学部等の入学定員の改訂】

医学部医学科 100人 → 110人

山形大学医学部教授会議事録の原本と相違ないことを証明する。

平成19年7月20日

山形大学医学部長 嘉山孝正



5 医学部の収容定員変更の趣旨等を記載した書類

医学部の収容定員変更の趣旨等を記載した書類

1 収容定員変更の内容

山形県における医師不足を解消し、引き続き地域医療を担う医師を養成し確保する観点から、山形大学医学部医学科の収容定員について、以下のとおり変更（増員）を行う。

入学定員 100人 → 110人（平成29年度まで）
 収容定員 600人 → 660人

2 収容定員変更の必要性

山形大学医学部においては、昭和54年に第1期生を医師として輩出して以降、着実に山形県内の医療を支える医師を養成し、また定着を図ってきた。山形県内の自治体病院に勤務する地元大学卒業医師の割合では、現在約半数を占めるなど、県内唯一の医師養成機関として重要な役割を担ってきたものである。

山形県内自治体病院における山形大学医学部卒業医師の状況

年	自治体病院数	医師総数 (A)	山大卒業医師 (B)	(B)/(A)
昭和55年	24	309	8	2.6%
平成18年	26	735	356	48.4%

しかしながら、厚生労働省の調査によると、山形県の人口10万人あたりの医師数は、全国平均を下回っており、かつ、地域ごとに偏在している状況下にある。さらに、山形県の100km²あたりの医師数は、全国平均の約3分の1と大きく下回っている。

人口10万人あたりの医師数と面積あたりの医師数の比較

	医師数 (人)	人口10万人 あたりの医師数		面積 (km ²)	面積あたりの 医師数	
			順位		(人/100 km ²)	順位
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)=(a)/(d)	(f)
全 国	270,371	211.7	—	372,862.8	72.5	—
山 形	2,431	198.8	32	9,323.4	26.1	44

資料：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」

総務省統計局「社会生活統計指標」

※ 医師数は平成16年末現在、面積は平成15年10月1日現在

現在の医療を取り巻く環境や社会状況の変遷に伴い、医師の地域偏在による医師不足は依然として深刻な問題であることは、周知の事実である。さらに、この医師不足問題、中

でも地域医療に従事する医師，小児科や産婦人科といった特定診療科に従事する医師の確保が喫緊の課題となっている。

また，本学が位置する山形県は，新医師確保総合対策においても医師不足が特に深刻と認められる県に指定されていることから，早急に県と連携協力のもと医学部の収容定員増と奨学金制度の充実等，医師の確保並びに医師の地域定着策を講じる必要がある。

このことから，山形県における深刻な医師不足の解消と地域定着，地域医療レベルの向上を目的として行う県内医師定着率向上策を有効に機能させるため，新医師確保総合対策に基づき，入学定員の増員を図るものである。

このように，山形大学医学部においては，入学定員の増員を図ることにより，さらなる学部教育の改善をはじめ，医師の育成・確保に資する取組や地域定着に関する取組の充実・強化に関し，一層の改善・充実に図り，引き続き山形県の医師確保に中核的な役割を果たすとともに，山形県における医療の向上に貢献することを目指していくものである。

[期待される成果]

- 1) 山形県の地域医療を担う医師の育成及び確保
- 2) 地域医療施設の医師充足率の向上に伴う，勤務医の研修機会の増加等，生涯教育による地域医療レベルの向上

3 収容定員変更に伴う教育課程等の変更内容

(1) 山形県の地域医療を担う医師の養成のためのプログラム

山形県の地域医療を担う医師の養成のためのプログラムとして，地域医療の必要性・重要性を理解し，卒業後，本学部附属病院で初期臨床研修を行う。その後，山形県内の病院で医師として地域医療に従事する意識を持ち続けさせるために，6年一貫教育として，これまでの地域医療に関する授業をさらに充実させるとともに，地域医療に関する授業を新設する。

1年次	科目名	医学基礎教育科目「基礎社会医学」のなかでの「地域医療」(必修)
	開講時期	前期 水曜日3・4校時 10回開講の中で充実させる。
		社会と健康，疾病との関係や地域医療について理解し，環境要因の個体や社会生活への影響について講義を受ける。 さらに，夏季休業時に行う「早期医学・医療体験学習」で，地域医療の現状を認識させる。
	科目名	医学基礎教育科目「早期医学・医療体験学習」(必修)
	開講時期	夏季休業中 事前準備，救急車同乗実習及び事後のまとめ 計3日間

		<p>1 日目 (事前準備)</p> <p>午前：ガイダンス，山形市消防署長「山形地区における救急搬送の現状」，山形県消防防災航空隊隊長「救急患者搬送の留意点」による講演</p> <p>午後：心肺蘇生の体験実技及び実習時の注意点</p> <p>2 日目から (救急車同乗実習)</p> <p>2 人 1 組で山形市，上山市及び天童市の消防署 (5カ所) に分かれて，1 日 (9:00～17:00) 救急車同乗実習を行う。</p> <p>最終日 (事後のまとめ)</p> <p>午前：各自が体験した救急車同乗実習を口頭発表し，体験を共有し意見交換を行う。</p> <p>午後：心肺蘇生演習・試験を行う。</p>
	授業内容	<p>目的</p> <p>救急車に同乗し地域における患者搬送の現状を体験，患者及び家族の状況を理解し，救急医療に関心を持たせる。併せて，医療の原点である救急医学の初歩を体験し，医学に対する興味を高揚させるとともに地域医療の現状を認識させる。</p>
2 年次	科目名	地域医療学Ⅰを新設 (必修)
	開講時期	前期 水曜日 7・8 校時 4 回開講
	授業内容	グループに分けて，「地域医療について」をテーマとして，様々な角度からグループ学習を行った後，全体発表を行い相互に地域医療の重要性等について理解を深める。
3 年次	科目名	地域医療学Ⅱを新設 (必修)
	開講時期	前期 4 回開講
	授業内容	21 世紀 COE プログラムで採択された「地域特性を生かした分子疫学研究」等に代表される，地域特性を生かした先進的な研究について講義を行い，医学の発展において地域医療がもつ重要な役割についての理解を深める。
4 年次	科目名	地域医療学Ⅲ (必修)
	開講時期	前期 6 回開講のなかで充実させる。
	授業内容	県内で過疎化が進み深刻な状況にある最上地区，置賜，小国地区等の病院に出向き，現状を見学するとともに，病院長等により，現在病院が抱えている状況や地域医療の必要性について講義を受け，地域医療についてさらに理解を深める。
	科目名	「診療技能学」のなかでの「地域医療」 (必修)
	開講時期	後期 80 回開講のなかで充実させる。

	授業内容	臨床実習（ベッドサイドラーニング）を開始するにあたり、本学部附属病院の診療システムの概要を理解するとともに、実際の医療を実践するにあたり必要な診察法，検査法，患者さんと接する際の医師としてのマナー，面接技法，身体診察技法の基本を理解させる。 さらに，地域医療における医師の役割，地域医療に必要なチーム医療等について学ぶ。
	科目名	「社会医学・医療学（公）」のなかでの「地域医療」（必修）
	開講時期	前期 15回開講の中で充実させる。
	授業内容	保健統計，疫学，疾病予防，生活習慣病，保健・医療・福祉・介護の諸制度の講義を行い，後半は9つのテーマごとにグループに分かれチュートリアル形式で実習を行う。地域保健や地域の生活習慣病，高齢者社会における老人保健等の理解を深めるために，高齢者施設で老人保健実習を行い，レポートを提出させて全員で意見交換を行う。
4年次	科目名	「臨床実習ベッドサイドラーニング」のなかでの「地域医療」（必修）
5年次	開講時期	4年後期・5年前期
	授業内容	従来から実施しているBSLにおいて，教員とコメディカルの診療の仕方を通して「患者さん中心の医療」，「チーム医療」の本質を理解するとともに，各診療科等を2週間ずつ実習する中で，地域の主要病院をまわり山形県の地域医療の現状を実際に見学し，地域医療の重要性について学ぶ。

医学部医学科における建学の精神は、「人間性豊かな，考える医師の養成」とし，平成14年度から21世紀における医学・歯学教育の改善方策に基づく新たなカリキュラム「モデル・コア・カリキュラム」を導入し，充実した臓器別，系統疾患別講義を取り入れ，最新の医学知識を効率よく学ぶことができる体制を構築した。

さらに，共用試験（CBT，OSCE）をいち早く本格導入し，4年生の1月からベッドサイドラーニング（臨床実習20か月）と5年生の1月からクリニカルクラークシップ（診療参加型臨床実習5か月）を行い，臨床技能・態度の修得や問題解決能力のさらなる育成を図っている。

これらの充実したカリキュラムにより，医師国家試験合格率も全国6位（国立大学では3位）と優秀な成績を修めている。〔資料1〕

今後は，現行カリキュラムに加え，山形県の地域医療を担う医師の養成カリキュラムを一部改善するとともに，「地域医療学Ⅰ」及び「地域医療学Ⅱ」を新規の科目として立ち上げ，教育内容の一層の充実を図るものである。

なお，履修指導については，これまでの指導方法を維持しながらも，山形県における救急医療の実態や過疎地区における医療の現状を学ばせた後，チュートリアル教育において地域医療についての理解をさらに深める。また，最前線の地域医療の講義及び過疎地区における医療現場の見学を通して知識をより確実なものにさせる。

さらに，ベッドサイドラーニングの一環として県内の地域医療の現場に出向き，特定機

能病院では体験できない症例等を体験させ、患者に直に接することにより地域医療の重要性を再認識させる。

これらの教育を実践することにより、山形県の地域医療を担う医師養成の一層の充実を図るものである。

(2) 卒後臨床研修制度の充実等

○「初期臨床研修」

医学部附属病院では、6年生と5年生を対象（一部4年生を含む。）とした卒後臨床研修等の説明会を、それぞれ年4～5回程度開催している。この説明会においては、学部長、病院長始め全診療科長（教授）が一体となり、本院及び県内の医療機関における研修を積極的に推奨するなど、自大学の学生が1人でも多く研修に残るよう指導を行っている。

また、地域医療の崩壊を防ぐ上でも、1県1医科大学の役割を再認識し市中病院との連携を図るなどして、大学独自はもとより地域一体で研修医を確保していく必要があることから、独自の魅力ある研修プログラムを作成している。〔資料2〕

さらに、日常におけるPRやホームページによる情報提供、また、山形県とも連携し積極的な広報活動を行う等、医師の確保を図るべく鋭意努力をしてきており、その結果、定員充足率は非常に良好な状況にある。〔資料3〕

○「後期臨床研修（専門研修）」

後期臨床研修については、医局単位で自大学出身の初期研修医を中心に、幅広く員数の確保に努めている。教育体制では、各診療科が専門医に要求される研修内容に対応した緻密なプログラムを有しており、専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標をマンツーマンの指導体制にて対応している。

また、本院には、関連医療施設の医学・医療の充実と発展を図り、人材養成と地域医療の向上に寄与することを目的として設立された「山形大学蔵王協議会」という組織があり、本院と関連病院会加盟病院が有機的に結びついた研修が可能となっている。

- 医学部附属病院においては、指導医から臨床研修医まで、さまざまな年齢層の医師が研鑽を積んでいる。こうした環境の中で若い医師のキャリア形成を支援し、卒後臨床研修だけでなく、卒後3年目以降の将来を考え、大学病院の先進的な医療の環境と、地域の第一線の医療機関での診療経験を組み合わせられるような新たなプログラムを構築し、若い医師を実力のある専門医として成長させる体制を整備するものである。

資料1

医師国家試験合格者の推移

平成19年4月1日現在

年度	回数	受験者数	合格者		不合格者		合格率	国立大学での順位	全国大学での順位
			合格者数の計		不合格者数の計				
			新卒者	左の内訳 既卒者	新卒者	左の内訳 既卒者			
18	101	98(36)	95(34)	93(33)	2(1)	3(2)	0(0)	3位	6位
17	100	108(46)	105(45)	101(43)	4(2)	3(1)	2(0)	2位	7位
16	99	98(36)	92(34)	89(34)	3(0)	6(2)	1(0)	9位	17位
15	98	95(32)	91(32)	89(32)	2(0)	4(0)	1(0)	5位	8位
14	97	104(36)	101(36)	96(35)	5(1)	3(0)	2(0)	3位	6位
13	96	108(26)	100(24)	95(23)	5(1)	8(2)	5(1)	21位	34位
12	95	125(39)	118(37)	95(30)	23(7)	7(2)	6(1)	10位	18位
11	94	110(41)	82(34)	70(28)	12(6)	28(7)	9(2)	39位	63位
10	93	114(33)	96(26)	84(24)	12(2)	18(0)	4(0)	33位	49位
9	92	121(37)	106(34)	95(31)	11(3)	15(3)	8(2)	31位	60位

* 受験者数には過年度生を含む。 * ()は女子

平成 20 年度 山形大学医学部附属病院卒後臨床研修プログラム

I 理念と特徴

将来の専門領域にかかわらず、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるように、ファーストエイド(first aid)とプライマリ・ケア(primary care: 初期処置)の基本的な診療能力を身に付けることができ、また、高い倫理観を涵養できる内容をもった研修を行う。同時に、2年間の研修の中に、2か月の希望科と6か月の研修協力病院での研修を取り入れるなど、4種類のプログラムを用意し、将来の専門性も考えた研修を行うこともできるなど弾力性をもたせた。さらに、研修医の評価を行うとともに、研修医から指導医の評価も積極的に行ってもらったこととした。

II 研修制度の概要

- 1 山形大学医学部附属病院（以下「大学病院」という。）とその研修協力病院において、卒後2年の間に、基本研修科として3科（内科，外科，救急部・麻酔科）と必修科として4科（小児科，精神科，産婦人科，地域医療）の研修と到達目標の70%以上の達成を義務付ける。
- 2 研修の最終責任者は、山形大学医学部附属病院長（以下「病院長」という。）とする。
- 3 最初の12か月は基本研修科の研修を行い、基本研修科の研修修了後に必修科，希望科等の研修を行う。
- 4 山形大学医学部附属病院卒後臨床研修センター（以下「センター」という。）は、研修プログラムの作成及び調整を行う。
- 5 各研修医は、研修開始前にセンターと十分協議の上、研修プログラムを作成する。
- 6 各研修協力病院の研修科は、センターと密接に連絡を取りながら到達目標の達成に努力する。

III 研修指導体制

- 1 指導体制：病院長の指導のもとにセンターが実務を行う。
- 2 研修指導医：積極的に取り組む指導医の選任と養成に病院として努力する。
 - ① 研修指導医は診療科長が推薦する。
7年以上の臨床経験を有し、プライマリ・ケアの指導に情熟を持つ者。
 - ② 研修指導医の任命権者は病院長とする。研修協力病院においてはその病院長に判断を委ねる。
 - ③ 研修医はセンターに対して指定された評価表により、研修指導医の評価を行うことができる。

IV 研修プログラム

1 研修プログラムの種類

- ① プログラムA (大学病院必修科・希望科6か月+協力病院6か月研修コース) 20名

1年目 (基本研修科)			2年目 (必修科等)					
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
内科	外科	救急 麻酔	小児	精神	産婦	地域医療	希望科 (大学)	希望科 (協力病院)
6か月	3か月	3か月	1か月	1か月	1か月	1か月	2か月	6か月

・2年目の前半(6か月)を大学病院で必修科・希望科を研修し、後半(6か月)を協力病院で研修する。(前半と後半の入れ替えも可)

- ② プログラムB (大学病院・協力病院自由選択研修コース)

15名

1年目 (基本研修科)				2年目 (必修科等)						
①	②	③	④	⑤	⑥	⑧	⑦	⑨		
内科 (大学)	内科 (大学・協力病院)	外科	救急 麻酔	希望科	小児	精神	産婦	地域 医療	希望科	希望科
3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	1月	1月	1月	1月	2か月	3か月

・1年目、2年目の基本研修科、必修科、希望科を大学病院または協力病院で研修する。(3か月ごとの入れ替え可能)

- ③ プログラムC (協力病院必修科・希望科1年研修コース)

10名

1年目 (基本研修科)			2年目 (必修科等)				
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
内科	外科	救急 麻酔	小児	精神	産婦	地域医療	希望科
6か月	3か月	3か月	最低1か月	最低1か月	最低1か月	最低1か月	最高8か月

・2年目の1年間で必修科(各々最低1か月)及び希望科を全て協力病院で研修する。

- ④ プログラムD (大学病院必修科1年研修コース)

5名

1年目 (基本研修科)			2年目 (必修科)			
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
内科	外科	救急 麻酔	小児	精神	産婦	地域医療
6か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月

・将来の専門科が特に決まっていないうためのプログラムで、2年目で必修科を重点的に大学病院で研修する。

- (1) ①～③は大学病院（Bプログラムについては協力病院含む）で行い，研修医の希望によりセンターが調整する。①は第一内科，第二内科，第三内科で，②は第一外科，第二外科，脳神経外科の中から2つ選択し，研修を行う。
- (2) ④～⑨の順序は，研修医の希望によりセンターが調整する。
- (3) ⑦は，病院，保健所，診療所，社会福祉施設，介護老人保健施設等の中から選択し，センターが調整する。

2 プログラム責任者

プログラムA：センター長 倉 智 博 久

プログラムB：副センター長 佐 藤 慎 哉

プログラムC：第二内科教授 河 田 純 男

プログラムB：救急部教授 川 前 金 幸

3 研修協力病院は次のとおりとする。

- | | | |
|----------------|---------------|----------------|
| (1) 国立病院機構山形病院 | (2) 山形県立河北病院 | (3) 山形県立新庄病院 |
| (4) 公立置賜総合病院 | (5) 鶴岡市立荘内病院 | (6) 市立酒田病院 |
| (7) 寒河江市立病院 | (8) 山形済生病院 | (9) 東北中央病院 |
| (10) 三友堂病院 | (11) 篠田総合病院 | (12) みゆき会病院 |
| (13) 鶴岡協立病院 | (14) 山形県立鶴岡病院 | (15) 秋野病院 |
| (16) 千歳篠田病院 | (17) 二本松会山形病院 | (18) 公立高島病院 |
| (19) 白鷹町立病院 | (20) 小国町立病院 | (21) 山形県立日本海病院 |
| (22) 山形市立病院済生館 | (23) 米沢市立病院 | (24) 山形県立中央病院 |

4 地域保健医療に係る研修協力施設は次のとおりとする。

- | | | |
|------------------|----------------------|------------------|
| (1) 山形県村山保健所 | (2) 介護老人保健施設 サンプラザ米沢 | (3) 老人保健施設 のぞみの園 |
| (4) 山形県結核成人病予防協会 | (5) 山形県赤十字血液センター | (6) 朝日町立病院 |
| (7) 金山町立病院 | (8) 町立真室川病院 | (9) 最上町立最上病院 |

5 研修協力病院・研修協力施設への連絡

研修開始予定日の3か月前までに，センターから当該病院へ連絡するものとする。

V 研修医の募集

卒後臨床研修プログラムを公開し，全国から募集する。

1 研修医の定員

1年当たり50名を採用する。

2 研修医の選抜方法

センターが面接による選考試験を実施し，マッチングにより決定する。

VI 研修医の処遇

山形大学医学部附属病院の医員（研修医）として採用し、病院は研修環境の整備に努力する。研修協力病院においても研修医として採用する。

1 勤務体制と勤務時間：原則 8 時間，週 5 日

医師という職業の特殊性から柔軟性が必要と思われる。詳細は各診療科の診療業務に従うものとする。

2 給与：月額約 29 万円（臨床研修手当を含む）

3 宿舎：空き宿舎があれば希望者は入居可能である。

4 健康診断：年 1 回

5 保険関係

① 政府管掌保険，厚生年金，雇用保険を適用する。

② 労働者災害補償保険法を適用する。

③ 医師賠償責任保険：任意保険への加入を積極的に勧める。

VII 臨床研修の評価

1 センターは研修手帳などを発行し、研修医は各診療科・施設での研修修了時に自己、指導医，スタッフ，診療科長が研修手帳に評価を記録する。

① 行動目標

② 経験すべき診察法・検査・手技

③ 経験すべき症状・病態・疾患

④ 特定の医療現場の経験

2 研修修了時にセンターが E P O C（オンライン研修システム）等を用い評価を行い、病院長に上申する。病院長は、研修管理委員会にて判定を行い、研修を修了したと認定された研修医に対して臨床研修修了証を与える。

VIII 問い合わせ先

〒990-9585 山形市飯田西 2-2-2

山形大学医学部総務ユニット広報企画担当

TEL：023-628-5017

FAX：023-628-5019

E mail：isokoho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

平成18年度東北地区大学病院及び山形県内研修病院のマッチング状況

2006.10.19

1. 東北地区大学病院

病 院 名	定員	マッチ数	空き定員	定員充足率
弘前大学医学部附属病院	47	8	39	0.17
岩手県岩手医科大学附属病院	30	3	27	0.10
東北大学医学部附属病院	40	27	13	0.68
秋田大学医学部附属病院	40	11	29	0.28
山形大学医学部附属病院	50	29	21	0.58
福島県福島県立医科大学医学部附属病院	45	22	23	0.49

2. 山形県内研修病院

病 院 名	定員	マッチ数	空き定員	定員充足率
山形大学医学部附属病院	50	29	21	0.58
山形県立中央病院	12	12	0	1.00
山形市立病院済生館	10	9	1	0.90
山形済生病院	8	2	6	0.25
公立置賜総合病院	4	4	0	1.00
米沢市立病院	4	4	0	1.00
山形県立新庄病院	4	3	1	0.75
医療法人徳洲会 新庄徳洲会病院	2	0	2	0.00
鶴岡市立荘内病院	5	1	4	0.20
山形県立日本海病院	5	4	1	0.80
市立酒田病院	2	2	0	1.00
医療法人社団山形愛心会 庄内余目病院	4	1	3	0.25
山形徳州会病院	2	0	2	0.00
山 形 県 合 計	112	71	41	0.63

6 教員名簿（学長の氏名等）

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
一	学長	センドウ フジロウ 仙 道 富士郎 (平成13年9月)		医学博士		山形大学長 (平成13年9月)